

第四回 全国俳句大会 最終選句のご紹介

選句、選評 佐々木 建成（俳人・天宮俳句会名誉顧問）

兼題部門

入賞					優秀賞		会長賞	受賞名		
九州	中国四国	中国四国	関東	北海道	関西	中部	中部	支部名		
久保 修一	井上 啓史	児子 敏明	森木 茂子	佐々木 浩	采野 久美子	千田 雅俊	平川 晴代	会員氏名 (敬称略)		
打水にもてなす心清めけり	暑いでしよう掛けた打水母の墓	打ち水にコロナ終息と願いこめ	絵筆取りゴツホのように雲の峰	武四郎蝦夷地走るや雲の峰	(選評) 京都の清水坂は普段は混雑しているが、この句はコロナ禍の現状を踏まえ、もてなしの打水をして客を待たせていても「入まばら」だとまとめた。	そば処井戸の霊水打水に (選評) 手打ち蕎麦を打つのに霊水が使われているのはそば処ならではの思いがするが、なんと打水にまで使うとは贅沢な話だ。	(平川さんより、受賞のお喜びの声) 受賞のお知らせをいただきありがとうございます。日頃から整理整頓が苦手な私は、おびつくりです。自然や身のまわりの手で机上は本・郵便物等々ごちゃごちゃしてあります。反省を込め詠んだ一句です。自然や身のまわりの移ろい等を楽しんでこれからは句に出ればと思っております。落ち着かぬ世情の中関係者の皆様にはありがたくお礼申し上げます。	昔から資料、書籍、写真などを棄てられず溜め込む一方だが、コロナ禍の中で整理整頓に取り掛かってものを思ったほどは進まない。このような悩みと花や種をやらせに散らかす鳳仙花と言う季語との付かず離れずの取合せが絶妙だ。	今もって整頓下手や鳳仙花	選句

選句全体についての感

主催者のご尽力と会員の皆さんの熱意により、前回より投句者が増えており、オリジンナリテイの豊かな作品が生まれるなど句のレベルが漸次上がってきていると感じる。今後の精進をお祈りしたい。

選者の佐々木先生より、応募者へのアドバイスがありました

(一)二つ以上の季語が無意識に使われている句が多かった。
(二)中七が守られておらず、中八の間延びしている句が見られた。

佐々木 建成